

平成30年度学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立門前高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 主体的で対話的な深い学びの実現をめざして、ICTを活用した授業改善を図る。							
・基礎学力及び家庭学習の定着	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課 各学年	・生徒の授業態度は概ね良好だが、自ら学び理解を深める意識の醸成が必要である。	【成果指標】（生徒） 「私は事前に予習や宿題等の授業の準備をして臨んでいる」と評価した生徒が増えている。	「私は事前に予習や宿題等の準備をして授業に臨んでいる」と評価した生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 50%未満	Cの場合は改善策を検討する。	生徒対象調査 (7, 12月)
・生徒の思考力・判断力・表現力の向上	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課	・生徒の授業理解度は高いが、今後自分の意見を発信し相手と対話しながら物事を進める力を身につける必要がある。	【成果指標】（生徒） 「根拠に基づき、自分の意見を表現する（発表する）力が身についた」と評価した生徒が増えている。	「根拠に基づき、自分の意見を表現する（発表する）力が身についた」と評価した生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 50%未満	Cの場合は改善策を検討する。	生徒対象調査 (7, 12月)
	・門高読書タイムや図書館講座の実施	図書課 教務課 進路指導課	・読書活動を通して生徒の思考力・表現力・判断力の下支えする力を養成する必要がある。	【成果指標】（生徒） 「年間3冊以上の本を読んだ。（読書タイムに読んだ本も含む）」と評価した生徒が増えている。	「年間3冊以上の本を読んだ」と答えた生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 50%未満	Cの場合は改善策を検討する。	生徒対象調査 (7, 12月)
・教員の授業力及び資質・能力の向上	・教員による「学校評価アンケート」の結果に基づく授業改善	教務課 進路指導課	・新学習指導要領が求める生徒の資質・能力を育成するために、教員の探究的な学習指導スキルの向上が必要である。	【成果指標】（教員） 「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している（実施した）」と評価した教員が増えている。	「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している（実施した）」と評価した教員の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 50%未満	Cの場合は改善策を検討する。	教員対象調査 (7, 12月)
	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進			【成果指標】（生徒） ICT機器により授業の理解度が高まった。	「ICT機器を効果的に使っている」と評価した生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 50%未満	Cの場合は改善策を検討する。	生徒対象調査 (7, 12月)
2 キャリア教育の充実と学力の向上によって、多様な進路実現を図る。							
・進路意識の醸成と早期確立	・外部講師によるキャリア教育講演会 ・クリエイティブ人材育成事業 ・企業人インタビューDVDの活用 ・インターンシップ ・進路講演会 ・進路学習 ・上級学校キャンパスツアー	進路指導課 各学年	・働くことの意味や自分の適性を理解して、将来の進路設計を立てる力を養成する必要がある。	【努力指標】（生徒） 自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになったと評価した生徒が増えている。	自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになったと評価した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C, Dの場合は改善策を検討する。	生徒対象調査 (7, 12月)
・個に応じた学習指導の充実による進路実現	・習熟度別授業 ・放課後補習 ・個別指導	教務課 進路指導課 各学年 各教科	・多様な進路志望の生徒に応じた指導の更なる充実が求められている。 ・大学進学を目指す生徒への個に応じた学習指導の向上が求められている。	【成果指標】（教員） (1・2年生) 対外模試の成績を伸ばした生徒が増えた。(7月と1月模試の結果で判定する)	対外模試の成績を伸ばした生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C, Dの場合は改善策を検討する。	対外模試結果
				【満足度指標】（生徒） (3年生) 卒業後の生徒の進路先の満足度で計る。	卒業後の自分の進路決定について満足している生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C, Dの場合は改善策を検討する。	生徒対象調査 (7, 12月)
・インクルーシブ教育による生徒支援の充実と進路実現	・インクルーシブ教育の涵養をねらいとする校内研修会、個別事例研修会の実施 ・教員のカウンセリングマインドの涵養のための研修会の実施	教育相談 全教員	・支援を要する生徒が増えてきている。	【成果指標】（教員） 研修会等によりインクルーシブ教育について理解を深め、指導に役立てることができる教員が増えた。	研修会等によりインクルーシブ教育について理解を深め、指導に役立てることができる教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C, Dの場合は改善策を検討する。	教員対象調査 (7, 12月)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 ワークバランスを取りながら、部活動やボランティア活動によって、学校の活性化を図る。							
・教員の働き方改革の推進	・部活動年間計画、月別活動計画作成及び見直し ・計画的、協働的な校務の推進 ・定時退庁日の設定 ・最終退校時間の設定と実践	全教員	・教員の多忙化解消に向けた取組の実践が喫緊の課題である。	【成果指標】（教員） 最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行う教員が増えている。	最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行う教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員対象調査 (7, 12月)
・各種行事・諸活動への自主的参加	・各種校内行事 ・学校企画の諸活動 ・学校祭等の生徒会活動	生徒会 総務課	・どの活動においても概ね意欲的に参加しているが、より自主的な活動になるよう指導し、良好な人間関係形成や自己有用感の向上につなげる。	【成果指標】（生徒） 行事や諸活動において、企画・運営に自主的に参加できた。	各種校内行事に自主的に参加し、自己の役割を果たしたと実感できた生徒の割合が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、D判定の場合は、改善策を検討する。	生徒対象調査 (7, 12月)
・部活動を通じた人間力の育成	・競技力、表現力向上を目指した日々の取組	生徒会 部顧問	・限られた時間を有効に活用し、競技力・表現力の質の向上を目指すことで個々の人間力を高める。	【成果指標】（生徒） 自主的に部活動に取り組むことで、自分を成長させることができた。	部活動を通して自分が成長したと感じた生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は、該当部活で原因を分析し、改善策を検討	生徒対象調査 (7, 12月)
・ボランティア活動による地域・他者貢献意識の高揚	・総持寺参道清掃 ・海岸清掃 ・暑中見舞い、年賀状作成、等	総務課 生徒会 全校生徒	・部活動単位でのボランティア活動には参加しているが、今後自主的に参加する姿勢を涵養していく。	【成果指標】（生徒） 学校行事も含めた各種ボランティア活動に年3回以上参加した。	活動に年3回以上参加した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、D判定の場合は、改善策を検討する。	生徒対象調査 (7, 12月)
	・各種地域行事への参加	総務課 ボランティア部	・過疎化が進み、独居老人が増えている。そのお年寄りたちの参加する各種地域のイベントに積極的に協力することで他者や地域貢献の精神を涵養する。	【満足度指標】（生徒） ボランティア活動を通して、他者や地域への貢献の意義を理解した。	活動を通して、他者や地域貢献の意義を理解した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、D判定の場合は、改善策を検討する。	生徒対象調査 (7, 12月)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 安心・安全な学校づくりを推進する。							
・いじめの早期発見・早期対応	・いじめに関する校内研修 ・生徒観察、生徒との人間関係づくりによる早期発見・早期対応 ・いじめ調査の実施	生徒指導課 教育相談 教員全員	・昨年度は認知無しだったが、「いじめは起こりえるもの」の意識を教員が常に持ち、未然防止に尽力する。 ・生徒の自己有用感を高め良好な人間関係づくりを進める取組を継続する。	【成果指標】（教員） 研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に結びつけている。	研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に結びつけている教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、D判定の場合は、改善策を検討する。	教員対象調査（7, 12月）
・スマートフォン等によるネットトラブルの未然防止	・スマートフォン等によるネットトラブル研修	生徒指導課 教育相談 教員全員	・校内での使用ルールは浸透しているが、家族との連絡以外に放課後使用する生徒が依然見られる。今後もスマートフォン等の危険性を説明し、指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識できるようにする。	【成果指標】（生徒） 「私は校内でのスマートフォンや携帯電話の使用ルールを守っている」と評価した生徒の割合で判断する。	「私は校内でのスマートフォンや携帯電話の使用ルールをしっかり守っている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、D判定の場合は、改善策を検討する。	生徒対象調査（7, 12月）
				【成果指標】（教員） 「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」と評価した教員の割合で判断する。	「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」と評価した教員の割合が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満		
		保護者	・使用時間・内容など、スマートフォン（携帯電話）等の使用のルール作りについて、継続して家庭での協力を求める。	【努力指標】（保護者） 「家庭でスマートフォンや携帯電話等の使用の仕方について話し合い、実践している」と評価した保護者の割合で判断する。	スマートフォンや携帯電話等の使用の仕方について話し合った保護者の割合が A 70%以上 B 60% C 50% D 50%未満	C、D判定の場合は、改善策を検討する。	保護者アンケート（7月、12月）
・通学時の交通安全	・自転車マナー指導 ・教職員・PTAによる街頭指導 ・交通安全に関する調査	生徒指導課	・自転車マナーに関する指導を受けた生徒は昨年度いなかったが、保護者・地域の方にも協力を仰ぎながら今後も生徒の規範意識向上に取り組む。	【努力目標】（教員） 生徒の交通安全意識向上に向けて、街頭指導を実施する。（年間3回以上参加する）	生徒の交通安全意識向上に向けて、街頭指導3回以上参加した教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、D判定の場合は、改善策を検討する。	教員対象調査（7, 12月）